

各地の話題

登米市



2021年9月3日号掲載

和牛界の金メダリスト ～さらなる高みを目指して～



登米市迫町新田で畜産業を営む小野寺正人さん（45）が出品した和牛の「さいぜんれつ号」が、今年7月8日に開かれた第14回登米市畜産共進会の経産牛の部で最優秀賞を受賞した。

2017年に仙台市で開かれた「和牛のオリンピック」と称される第11回全国和牛能力共進会（全共）では、「さいぜんれつ号」は第2区若雌の1において優等賞1席を獲得し日本一に輝いている。

小野寺さんは、農業大学校卒業後は水道関連の仕事をしていましたが、仕事のかたわら見学に行った第7回岩手全共の場で奮闘する牛たちの姿を見たとき、自分もいつか大勢の観客の前で牛を立たせてみたいと夢を持ったという。

小野寺さんは、ともにチャレンジを続ける「さいぜんれつ号」の活躍に「ピピッとくるものがあつた。生まれた時から見込みがあり、見る見るうちに頭角を現してきた」と語る。

休日の息抜きは、仕事の合間を縫って出かける趣味の釣り。「苦労もあるが面白くやりがいのある仕事。今後は頭数を増やして法人化を目指したい」と意気込む。

【記事提供：登米市農業委員会】